

第1回学校運営協議会(7月1日実施) 議事録

出席者

・学校運営協議委員(敬称略)

佐藤和彦(校長) 遠藤彰子(武藏野美術大学) 伊原伸一郎(東京純心大学)

三ツ堀清志(昭和音楽短期大学) 八木綾乃(宇宙航空開発機構) 上中陽子(弥栄小学校校長)

古屋礼史(弥栄中学校校長) 坂本きよか(光が丘公民館館長) 藤本渉(PTA会長)

高野靖彦(同窓会長)

・管理職、各グループ担当者

齊藤副校長、坂本事務長、冠野由紀子(管理G)、宮川貴之(教務G)、菅野光裕(生活G)

山本堅二郎(進路G)、鶴田明浩(SIG)、石川輝(広報・連携G)、笹原健太(総務G)

欠席者

臼永博之(教頭)、丸橋健人(広報・連携G)

議事内容

1. 開会挨拶と議事進行

・本会の議事録作成について

議事録は会議終了後に作成され、委員各位には書面にて送付予定。また、業務改善および本校のDXハイスクールとしての視点に基づき、レコーダーでの録音、およびそれによる文字起こしとAIを活用することについて出席者への了承を得た。録音については、議事録作成後責任を持って破棄する旨を確認。

2. 委員および教職員の自己紹介

・議題に沿って自己紹介を実施。新たに近隣の弥栄小学校の校長にも本会に参加いただくことになった。

3. 校長より

・令和7年度第1回学校運営協議会および学校の取り組みについて

○学校協議会の目的：資料に記載の通り。

○会長・副会長の選出：会長に藤本委員、副会長に佐藤校長が就任。

○部会の構成：学校評価部会…全ての委員が所属し、学校の取り組みについて意見を出す。

○地域連携部会：近隣施設等からの委員を中心に構成。

○第三者評価：有識者による第三者評価の視点を入れるため、2名の委員に依頼。年度末に別途意見を伺う。

・学校教育計画：昨年から変更なし。詳細は後ほど学校資料にて説明。

・今年度の主な取り組み

○安心安全な学校生活

…組織的な生徒支援の充実⇒かながわ子どもサポートドック（アンケート）を年に二回実施。気になる生徒には面談を行う。

○多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び

…不登校生徒増加に対応し、通信教育やオンライン授業による単位認定制度を昨年度より導入。

○交通安全

…11月にスケアード・ストレーント（スタントマンによる自転車事故再現）を予定。

自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務だが、4月～6月に自転車事故が多発。6月下旬に緊急で全校集会を実施し、着用を推進している。

○生徒の学力・課題解決力の育成

…STEAM教育について、研究指定第1期の3年間が終了し、県内の指定5校全てが第2期に入った。本校は4年目となる。教科等横断的な学びと探究的な学びをキーワードとする。

…探究的な学びについては大学入試の総合型選抜などに結びつけたい。

○ICT環境整備

…DXハイスクールに昨年指定され、今年で2年目。予算1500万円（2年間）で物品購入や研修、先進校視察などを実施。大型電子黒板を1年目に導入済み。県内でもトップクラスのICT環境が整っている。

今年6月からICT支援員が週1日（年間40日）配置され、授業におけるICT活用推進や教員への個別アドバイスを実施。

○新規グループの検討

…7つの既存グループを再編し、授業改善、STEAM教育、DXハイスクール事業などを担う新たなグループを来年度4月からの立ち上げにむけて検討中。

○教員の働き方改革

…外部からの受電時間を勤務時間内（8時半～16時55分）に限定。時間外は留守番電話と録音機能を活用。

…業務アシスタント（教員用1名、管理職用1名）計2名が各29時間配置。ICTに精通した人材を新規に採用。

…ICTサポーターが週2日（水・金）29時間配置。ホームページ更新など教員業務を支援。

○学校教育計画の見直し：

…DXハイスクールの指定を受け、2年次に情報Ⅱを設置し、来年4月からの授業実施を目指す。

○海外姉妹校交流受け入れ

…コロナ禍を経て、オーストラリア姉妹校への留学（普通科20名）を再開していたが、10月にはオーストラリアから14名が来校予定。小中学校、博物館、JAXAとの交流を計画。

○高校入試の状況

…今年度も良好な結果。来年度も好調を維持できるよう広報活動に活かしていく。入学希望者へのアンケートで本校の魅力を再確認。

○クラス編成の見直し

…これまで1・2年生はミックスクラス、3年生は学科クラスだったが、今年度から1年生と2年生のクラス替えを行わず、1年生のクラスがそのまま2年生に持ち上がった。これにより、担任や生徒間のコミュニケーションがより活発になることを期待する。

4. 報告事項（齊藤副校長より）

○グランドデザイン

…スクールミッション、学校教育目標、グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシーについて報告

○令和7年度学校目標と令和6年度学校評価報告書

…資料の通り

○不祥事ゼロプログラム

…資料の通り。令和6年度の不祥事ゼロプログラムを実施済み。令和7年度から9年度までの3年間で新たな不祥事ゼロプログラムが設定された。内容に大きな変更はない。

○DX加速化推進事業の購入物品等

…資料の通り。

○令和7年度学校目標

…資料の通り。上記の評価報告書に基づき、教育課程・学習指導から学校管理・学校運営までの5項目について、具体的な方法を定めた。

5. 詳細説明と質疑応答(各グループリーダーより)

教務グループ

STEAM教育研究推進校

…第2期目として、教科等横断的な学びと探究的な学びを推進。

授業改善週間

…6月と11月頃に設定。各教科から授業実践を行い、見学した教員が振り返りを共有し、STEAM教育を推進する。後期はテーマを教科等横断的な学びに限定する。

生徒による授業評価

…前期・後期に実施。生徒の授業に対する考え方アンケートで把握し、教員へのフィードバックを通じて授業改善につなげる。

英語外部検定試験の活用

…進路グループが取りまとめる夏期講習で英検対策講座も実施。今年度からは単位申請に関らず受験者数を調査し、積極的な利用を推進する。

生活グループ・管理グループ

多文化共生推進教育

…生活グループ内に「多文化共生推進教育グループ（推進チーム）」を設置。

在県枠・帰国枠生徒への支援

…相模女子大学の教室を借りて「CEMLAスクール」を実施。日本語能力が不足している生徒には国語科の「日本語A」などの選択科目や、1年生時にはほぼ全ての教科で個別クラスを設けて授業を行う。最終的には通常クラスへの合流を目指す。

放課後日本語学習教室の開催

…週に1回放課後、学習教室を開講。多文化教育コーディネーター、サポーター、学習支援員を中心に日本語と教科の学習を支援。

日本語能力試験の受験推進

…年2回の日本語能力試験を積極的に受験するよう指導し、卒業までにN2以上の取得を目指す。

CEMLAスクールの運営

…毎週土曜日、相模女子大学を借りて運営。ME-netという団体の日本語指導の先生と協力。本校だけでなく、県内の高校生や中学生も参加し、教科学習や日本語学習を行う。ボランティア活動としてYAEIアクト部の生徒や、日本語教師を目指す生徒が参加。

教育相談体制の充実

…毎週水曜日にスクールカウンセラー、金曜日にスクールソーシャルワーカーが来校し、生徒の面談を実施。面談は常に満員状態である。かながわ子どもサポートドックで気になる回答があった生徒にはッシュ型面談（担任による個別面談）を実施しサポート。

交通事故対策

…交通事故件数が非常に増加しているため、6月後半に緊急で全校集会を開き、注意喚起を行った。詳細な件数は後ほど資料で提示。今後はさらに厳しく注意を促し、ヘルメット着用を必須にするなど、踏み込んだ対策も検討する。地域住民への迷惑軽減のため、改めて注意喚起を徹底する。

防災教育

…生徒の安全のためのDIG研修は引き続き実施していく。新たな防災教育の企画についても検討していく。

SIグループ

生徒主体の活動推進

…生徒会が主体となり、探究的な視点を持った行事（WEFES：文化祭、体育祭）を推進。「SA GM Synergy」（スポーツのS、アートのA、ジェネラルのG、ミュージックのMの相乗効果）を目指す。

部活動

…専門学科の特色を活かしつつ、普通科の生徒も積極的に参加し、融合型で相乗効果を求める活動を支援する。

関東大会等報告

…いくつかの部活が関東大会に出場。PTA、同窓会の支援に感謝している。

陸上競技部女子 100m、200mの生徒1名が全国大会出場（7月下旬広島で実施）

剣道部女子 予選リーグ2位で敗退（1勝1敗）

女子バスケットボール部 1回戦を突破し、2回戦で敗退（関東ベスト8）

バドミントン部女子 初戦敗退

ワンダーフォーゲル部クライミング選手と水泳の飛び込みの選手

上位大会へ出場

国民スポーツ大会 女子バスケットボール部選手、女子サッカー部選手が選出される見込み。

文化部 サイエンス部がシンポジウムで評価され、シンガポールでの発表が決定。

部活動加入率

…5月1日現在で、例年同様学校全体としては90%の生徒が加入しているが、1年生男子が83%と低迷。今後は調査を行い、活性化に取り組む。

文化祭（WEフェスティバル）

…9月27日、28日に開催予定。例年より2週間遅いため、他校との日程重複が少なく、来場者の増加を予測。地域への魅力発信の機会と位置づける。また、会計ではPayPay導入を予定している。

花火は昨年同様、28日の後夜祭で18時半から打ち上げ予定。観覧は在校生と職員のみ。

その他学科発表会

…スポーツ科学科の発表会（12月13日）の前日（12月12日金曜日）に校内発表を実施。小中学校の先生にも見て頂きたい。集団行動やアクロバティックな演舞、弥栄体操などを披露したい。

進路グループ

個別の進路支援

…生徒一人ひとりの希望に応じたきめ細やかな進路支援を重点的に実施。

保護者対象説明会

…従来と異なりオンデマンド形式で実施。今年度からは、分野別・学部別などさらに細分化し、放課後に希望生徒を対象とした個別説明会も実施し、情報提供を充実させる。

教員向け進路研修会

…若手教員が多く、他校経験が少ない教員もいるため、進路指導の進め方に関する研修会を今年度から実施（5月末に第1回実施）

総合的な探究の時間の見直し

…普通科の総合的な探究の時間の見直しを検討中。専門学科では活動が充実しているが、普通科では資料集めやガイダンスに偏っているため、体験的な学びを充実させたい。

質疑応答①

Q. 中学生や保護者が高校を選択する際、進学率を重視する傾向がある中で、相模原弥栄高校の進学実績の立ち位置はどのようなものか。また、落ちこぼれる生徒へのサポートについてはどうなっているか。

A. 地域での弥栄高校の立ち位置は「相模原高校の次」と認識されている。実績については専門学科と普通科で多少異なるが、普通科が4学科中では最も高い進学実績をあげている。中学校の先生や近隣の塾からも、相模原弥栄高校を希望する生徒は多いと聞いている。ただ、推薦入試の利用者が多いことが進学実績の伸び悩みの要因にもなっていると認識している。探究的な学びを総合型選抜につなげることや、一般受験も視野に入れた継続的な指導を1年生から行い、進学実績を向上させたい。本校は大学進学を目指す、進学重視型の単位制高校を掲げており、まだまだ伸びしろがあると考えている。

（委員コメント）高い目標、能力を持つ生徒たちの中で落ちこぼれてしまう生徒は必ず出てしまうものと思われる。そのような生徒への手厚いフォローも学校に期待する役割であることを認識してほしい。

Q. 保護者向け説明会の資料に示された、5期生の4学科における受験方法について、特に普通科の一般受験が57%、専門学科の推薦・総合型選抜が8~9割という数字は過去5年間ずっと維持されているのか。

A. 数字は過去数年より維持傾向である。

（委員コメント）年内進路決定者が多い中で、一般受験を目指す生徒がいかに頑張れる環境を維持するかが重要である。また、大学入試におけるエントリーシートや志望理由書の不備から、高校教員の指導が行き届いていないと考えられるケースもある。多様な生徒の希望を叶えるための若手教員への研修会の重要性を改めて強調する。若手教員への研修が全体の指導力向上につながり、生徒の努力を支える環境作りに貢献していると評価できる。

広報連携グループ

広報活動

…パンフレット及び資料の通り。広報活動もこれから本格化するため、これに沿って活動していく。

情報発信

…広報委員会（生徒の広報活動担当グループ）が活動。ホームページの更新を重点的に、頻度を上げて実施していく。

SNS活用

…YouTubeなどのSNSが受検生にとって重要であると認識している。しかし、効果測定や活用方法については模索中。昨年はミュージックビデオへの部活動参加などもあった。

質疑応答②

Q.受検生の動向について、広報活動が結果に結びついたと考えられるか。

A.傾向として、8月の学校説明会に来た生徒の受検率が高い。YouTubeなどのSNSが非常に重要であると認識しており、今後も重点的に取り組む。しかし、具体的な効果測定は難しい。

（委員コメント）弥栄高校には4つの学科があり、それぞれの魅力を発信できる点で他校（普通科のみの高校）との差別化が可能であると考える。

総務グループ

魅力・特色アンケート（3月報告済み）

…新規委員もいるため再度資料を提示。様々な意見から学校の弱点を把握し、改善を図る。しかしその課題として二次元コードによるインターネットでのアンケートの回収率が非常に悪い。手軽なはずだが、実際に回答するまでのハードルが高いと考えられる。今後の周知方法や回答促進策を検討する。

学校要覧

…依頼していた印刷会社のミスにより、現在再作成中。今週中に最終版データを送付し、議事録送付と合わせてお届けできる見込み。

年間行事予定

…例年は学校要覧に掲載されていたが、トラブルにより完成が遅れているため別途資料として提示。主要イベントは広報グループから説明があったため割愛する。ホームページにも掲載されているので学校行事参観の参考にして欲しい。

STEAM教育研究推進校指定（第2期）

…2期目の3年間の研究計画と単年計画を共有。第1期では外部連携が不十分だったため、委員の皆様の助言を求める。DX事業との連携も視野に入れ、ハード面からソフト面(授業内容等)への教育活動を進めている。

質疑応答③

Q. STEAM教育の予算の具体はどうなっているか。

A. STEAM教育は第1期初年度と2年目は3万円、3年目のみ外部講演の予算としてプラス7万円がつき10万円。第2期も変わらず10万円である。デジタル機器等も活用したSTEAM教育推進を図るべく、DX事業と連携を強化し教育活動を進めていきたい。

事務

施設設備

…今年度、東棟と中央棟の窓ガラス交換を予定。先週末、カーテンレールを取り付け、遮光カーテンの導入を進めている。

6. 委員からの総括コメント

遠藤委員

弥栄高校の生徒の卒業制作や学生コンテストの作品レベルが高く、大学生よりも優れていると感じる生徒もいる。大学の進学相談会に作品を持参して積極的に参加することが、生徒の進学意識向上につながる。

伊原委員

弥栄高校の多岐にわたる取り組みに敬意を表するとともに、教員の心身の健康についても気を付けてほしい。また、グランドデザインにある「弥栄人」という言葉が初代校長の思いを引き継いでいることを伝えたい。多文化共生教育についても、現在まで継続されていることの重要性を強調したい。交通事故に関しては生徒会が主体となり、小中高合同での交通安全・挨拶運動に取り組むことで、地域住民にも良い影響を与えるのではないか。

三ツ堀委員

教職員の多忙な状況を察し、健康に留意して継続的な教育活動に取り組んでほしい。交通安全に関しては大人がもっと正しい姿勢を示す必要があり、子どもだけの問題ととらえることは本質ではないと感じている。

八木委員

令和6年度の報告書にある「外国語・理数教育を重点化」のうち、特に理数教育に関する具体的な取り組みについて質問したい。（⇒理数探究基礎の授業や女子生徒の理系進路に関する説明）また、JAXAとして女子学生の理工系進路選択を支援する活動を行っており、弥栄高校の生徒にもJAXAの特別公開イベントへの参加を促し、女子学生向けの相談会や交流の機会があることをお伝えしたい。

坂本委員

弥栄高校の先生方の熱心な取り組みに感銘を受け、生徒たちが幸せであると感じた。特に美術科の生徒が描いた公民館の絵は温かみがあり、多くの利用者に癒しを与えていていることを伝えたい。また、公民館で弥栄高校の教員、生徒による子ども料理体験が予定されており、子どもたちが楽しみにしていることも付け加える。様々な協力に感謝している。

上中委員

自転車の交通ルールについて、車と違い教習を受けていない自転車利用者が多いため、小中高連携で地域全体に発信していくことが重要であると考える。また、弥栄高校が交通安全対策に力を入れていることがわかったので持ち帰りたい。さらに、留学生との交流や料理教室などの機会を通じて、高校の生徒たちが小学生にとって身近なロールモデルとなることで、キャリア教育にもつながるという期待をしている。

高野委員

地元住民として、弥栄高校周辺の自転車通行の危険性は昔からあると理解している。来年4月から自転車の反則金制度が導入されることや、一時停止違反、ながらスマホの罰則強化について、生徒への周知を徹底すべきである。また、ヘルメット着用が努力義務であること、保険加入が義務化されていることにも触れたい。また、部活動指導員として出入りしている立場として、学校施設の雨漏りなど経年劣化について懸念がある。また、生徒の進路選択として公務員も進路の選択肢として情報提供してほしい。

藤本委員

普通科が戻ってきたことについて必然であると感じている。専門学科と普通科が交流し、お互いに刺激し合うことで、生徒全体の成長につながることを期待している。地域としては、弥栄高校のブランド力が高く、多くの生徒が進学を希望して人気が高まっている現状があるのではないか。しかし一方で、入学後に「落ちこぼれてしまう」生徒のメンタルケアの重要性を踏まえ、一人でも多くの生徒が卒業できるよう、学校が諦めずにサポートしていくことを強く要望する。昔と変わらず生徒一人ひとりに寄り添い、頑張る選択肢を与えてくれる学校であって欲しい。教員の働き方改革が進む中でも、生徒への愛情を持って対応して欲しい。

以上